

## 紫福八十八所 永長山宝積院

福栄文化遺産活用保存会

寛保二年(1742年)六代藩主毛利宗広(\*1)のとき、奥方勝姫(\*2)が奇病を患っていた。枕元に夜な夜な白狐が出没し、殿様も悩んでおられた。そこで、諸寺諸社に命じてこれが退散を祈願させたが、更に効果が無かった。そこで、鉄心寺六世朝陽祖旭(ちょうようそきよく)の徳行を聞き及ばれ、殿中に召して祈祷を申しつけられた。そこで、祖旭は、城中に出頭して祈祷した結果、間もなく妖怪は退散した。藩では、祖旭に対し、厚い恩賞を施す旨の沙汰をしたが、物欲に恬淡(てんたん)たる彼は、それを固辞し、紫福八十八所の大師堂建立を願い出て、これを許された。

祖旭が建立した紫福八十八所は、堀越・栗原・深谷・小西見・遠里・笹ヶ宇津・猪ヶ谷・市・田中・小野田・中山・畑・殿川・長尾・杉原・永田・土井ノ内・永田沖・今木・壇・堂ヶ市・山田・向山・京仏・下馬場・横貝・平原・奥畑などに点在する。寛延三年(1750年頃)

祖旭は、これ以前にも、観世院菩薩が衆生教化のため、三十三身を示現するという説により、三十三カ所の霊場を設け、紫福三十三所と名付けた。その一番札所が、永長山観音・二番長尾東福寺観音……三十三番田中铁心寺観音である。延享元年(1744年秋)

永長山宝積院(ほうしやくいん): 仏光寺古記録によれば、明治八年岩国より引寺せり。村有にして取り扱われたが、御達示により本尊のみ当寺に守護することに村民も約定した。殿川集落で講を結んで経営にあたり、仏光寺は、仏事の奉祀だけに携わる。

(以上、福栄村史より)

(\*1)六代藩主宗広(1717~1751年): 藍場川を開削し、農業用水だけでなく、防火用水として利用し、さらに川舟で城下に物資を運べるようにした。

(\*2)勝姫: 越前藩主松平宗昌の娘。融芳院。大照院に有る墓に葵の紋がある。

